

◆ 関西外国語大学 国際言語学部教授

井上 紘一 (いのうえ こういち)

○ 略歴：

- 1940年11月25日、東京にて出生
- 1964年3月 東京外国語大学外国語学部卒業
- 1966年3月 東京大学教養学部卒業
- 1966年4月 東京大学大学院社会学研究科修士課程進学
- 1970～1973年 ヘルシンキ大学歴史・言語学部在籍
- 1974年3月 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了
- 1974年4月 東京大学大学院社会学研究科博士課程進学
- 1975年4月 東京大学大学院社会学研究科博士課程中退
- 1975年5月 北海道大学文学部附属北方文化研究施設助手
- 1983年4月 中部工業大学国際地域研究所助教授
- 1984年4月 中部大学国際関係学部助教授
- 1987年4月 中部大学国際関係学部教授
- 1994年4月 北海道大学スラブ研究センター教授
- 2004年4月 関西外国語大学国際言語学部教授（現在に至る）

○ 講演題目： ブロニスワフ・ピウスツキの生涯

○ 講演概要： ブロニスワフ・ピウスツキ（1866-1918）はリトワニア生まれの人類学者です。ロシア皇帝暗殺未遂事件に連座してサハリン島へ流され、少壮期の19年をロシア領極東で過ごすことを強いられました。彼はその間、アイヌ、ニヴフ、ウイльтаなど北東アジア先住民の研究に従事して、すぐれた研究成果を残しています。しかし、ヨーロッパ帰還後も不遇で、膨大な成果の公刊を果たすことなく、第1次大戦中のパリで客死しました。

私は学生時代に、無名無冠のピウスツキと文献上で遭遇して以来、彼の業績を発掘・公刊し、然るべく評価を与える仕事に携わってきました。そのためには彼の生涯を知悉することが不可欠ですが、半世紀を経てようやくその全体像を見通せるようになりました。

今回は、4度に及ぶ日本滞在を含む極東時代（1887-1906）を中心に、ピウスツキの生涯を紹介させていただきます。なお、亡国ポーランドの「再興の父」として世界史教科書にも登場するユゼフ・ピウスツキは彼の実弟です。